

第2章

高齢者等の現状と将来推計

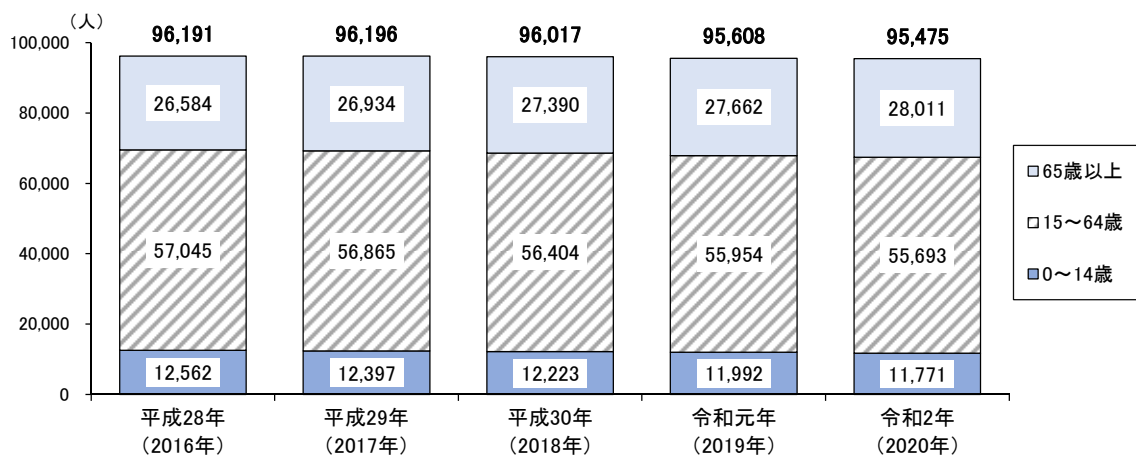
1 高齢者等の状況

(1) 年齢3区分別人口および高齢化率の推移

本市の総人口は、住民基本台帳によると平成28年以降、平成30年まで9万6千人台で推移し、令和元年に9万5千人台となり、令和2年4月1日現在で95,475人となっています。

年齢3区分別にみると、0～14歳の年少人口および15～64歳の生産年齢人口は、減少傾向で推移している一方、65歳以上の高齢者人口は年々増加しています。

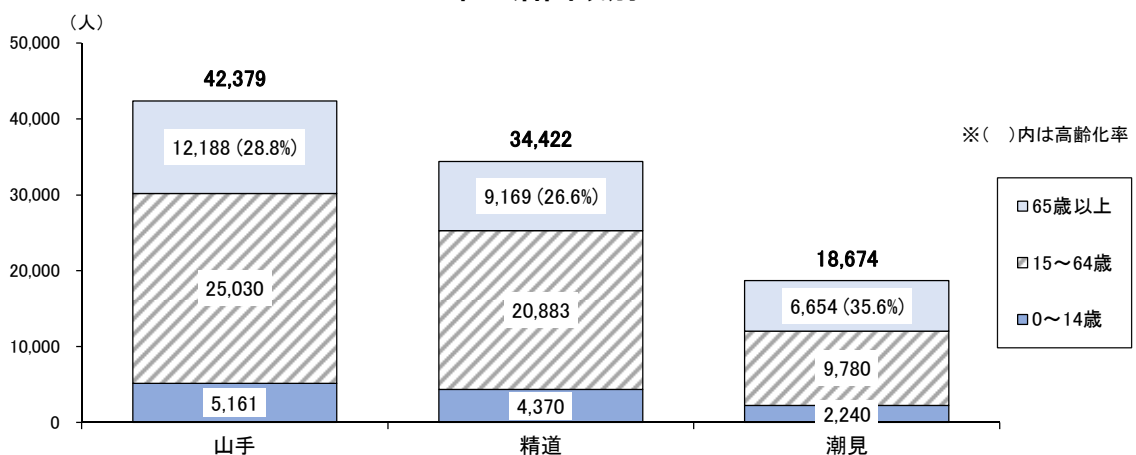
■ 年齢3区分別人口の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

日常生活圏域別の高齢者人口は、山手が最も多く、潮見が最も少ない状況です。高齢化率は、潮見が最も高く35.6%で、山手が28.8%、精道が26.6%となっています。

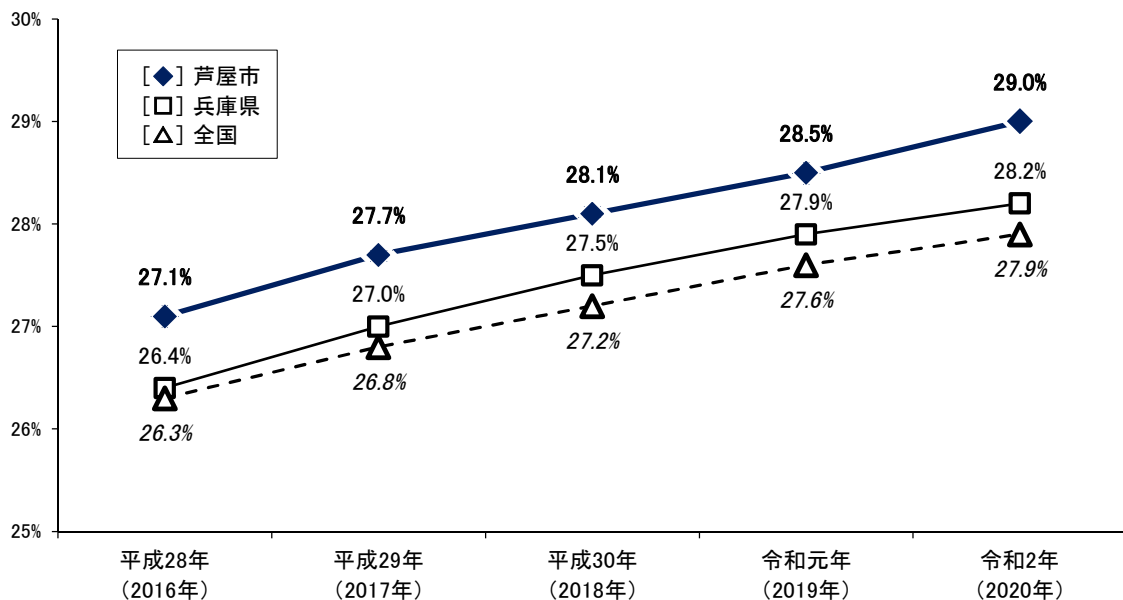
■ 日常生活圏域別



資料：住民基本台帳（令和2年10月1日現在）

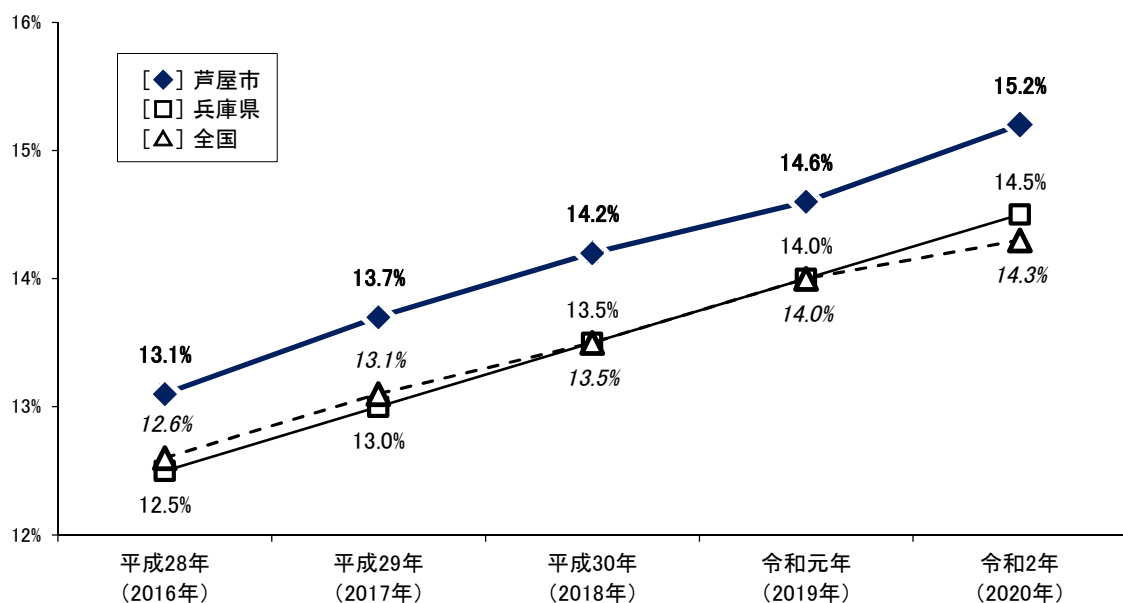
本市の高齢化率は全国・兵庫県と比べ、高い状況にあります。また、後期高齢化率も全国・兵庫県より高い状況です。

■高齢化率(高齢者割合)【全国・兵庫県との比較】



資料：総務省「住民基本台帳・年齢別人口」(各年1月1日現在)

■後期高齢化率(後期高齢者割合)【全国・兵庫県との比較】



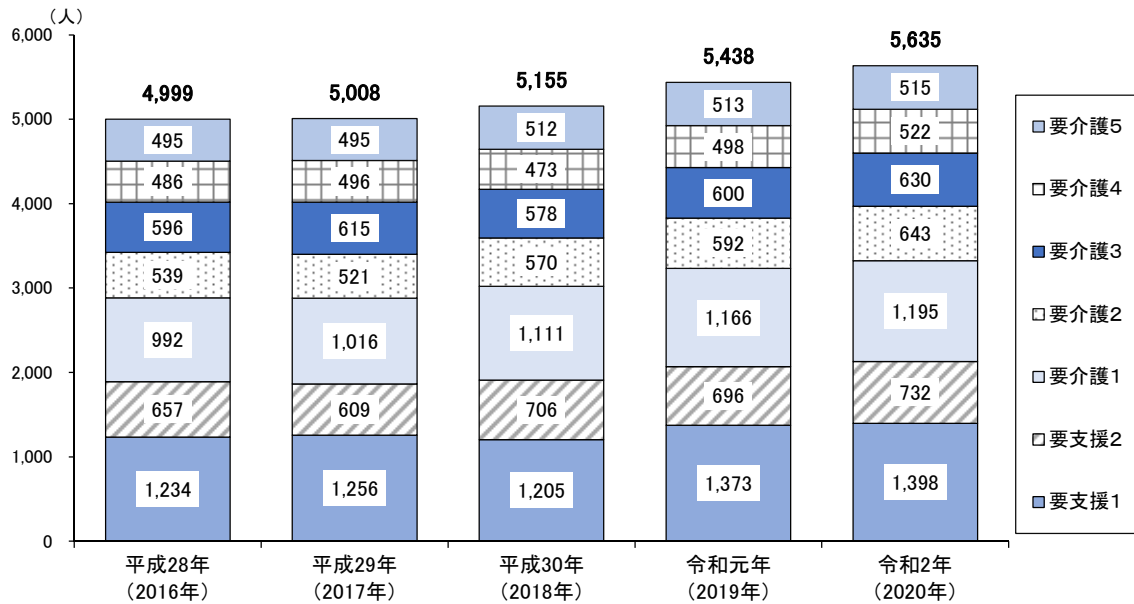
資料：総務省「住民基本台帳・年齢別人口」(各年1月1日現在)

(2)要支援・要介護認定者の状況

①要支援・要介護認定者数の推移

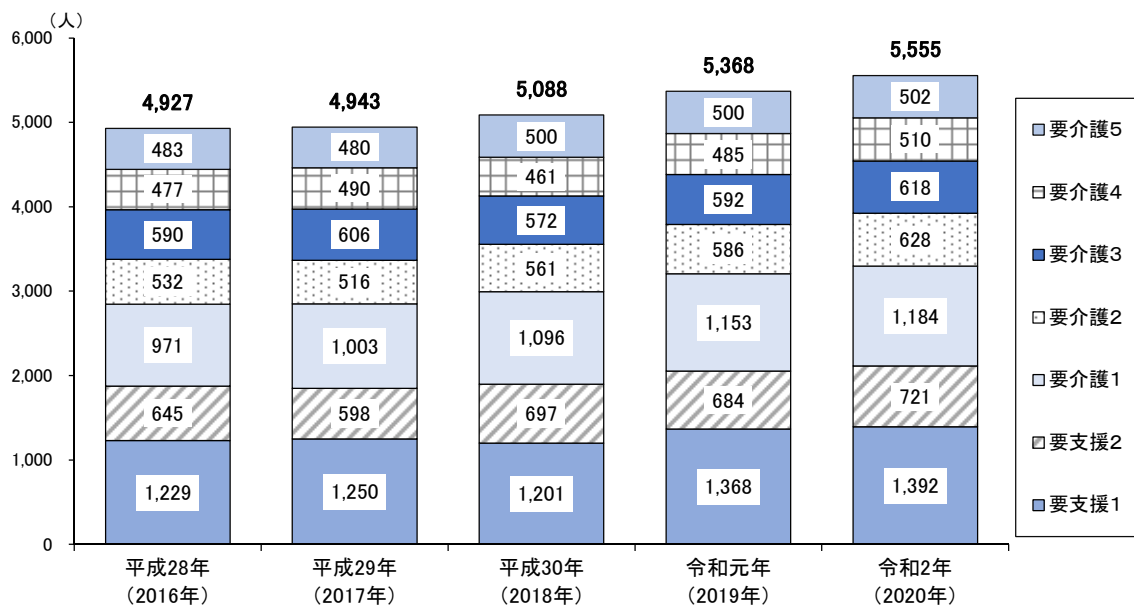
要支援・要介護認定者数の総数は年々増加傾向にあり、令和2年で5,635人となっています。要支援・要介護度別にみると、各年ともに要支援1が多く、令和2年では1,398人で要支援・要介護認定者の24.8%を占めています。

■要支援・要介護認定者数の推移(総数)



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

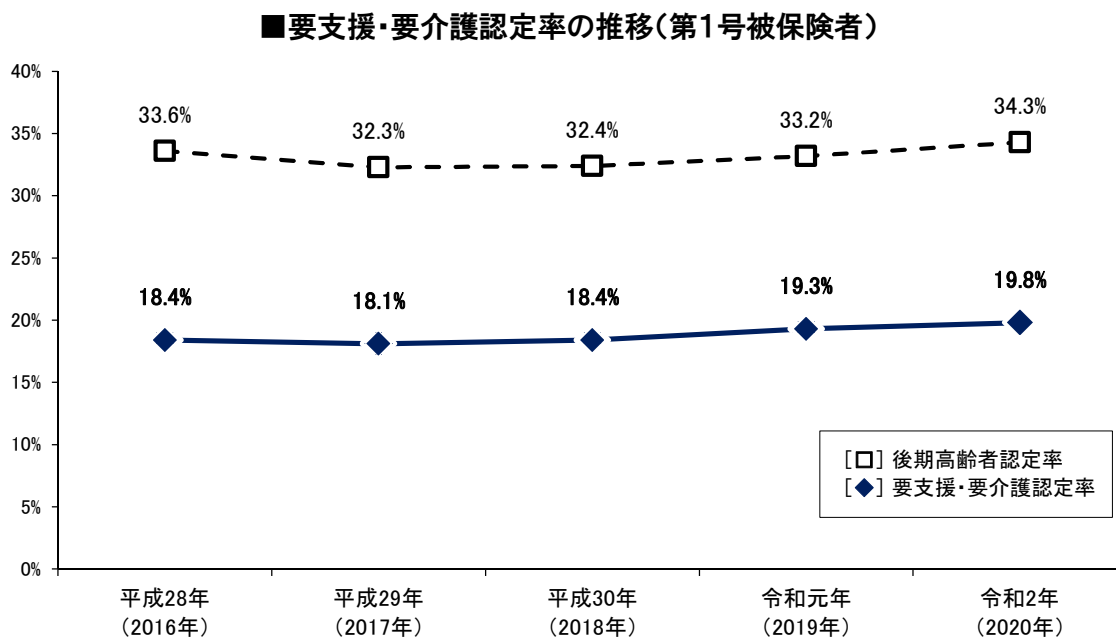
■要支援・要介護認定者数の推移(第1号被保険者)



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

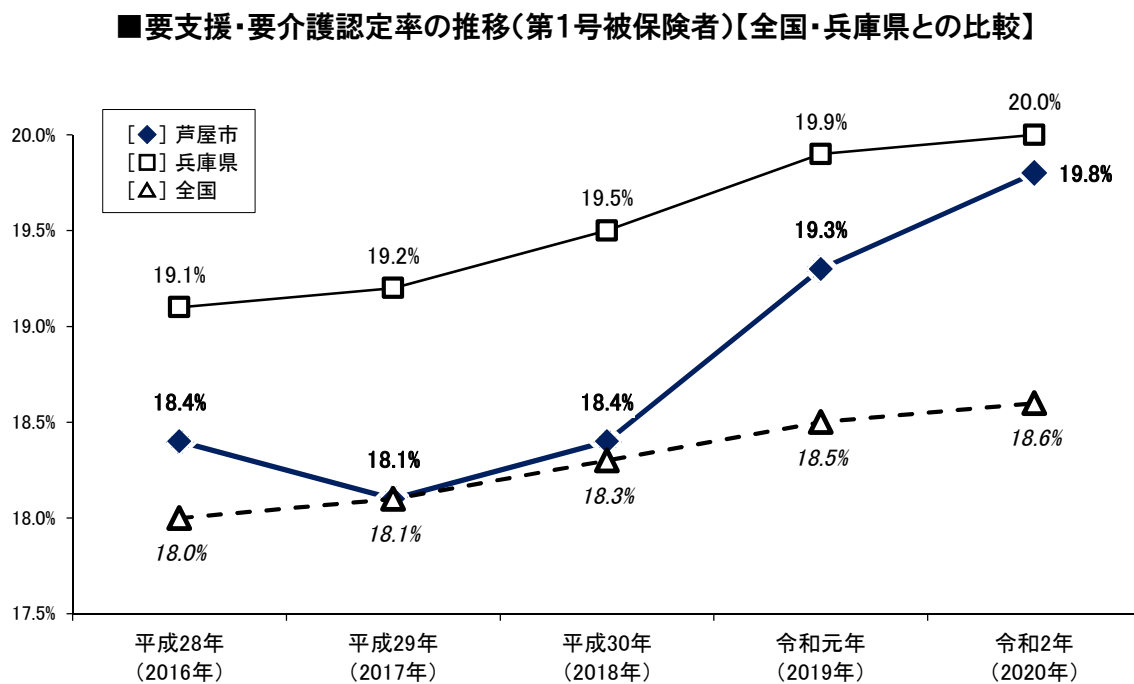
②要支援・要介護認定率の推移

本市の要支援・要介護認定率は、平成29年より上昇傾向にあり、令和2年に19.8%となっており、後期高齢者の認定率は34.3%となっています。



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

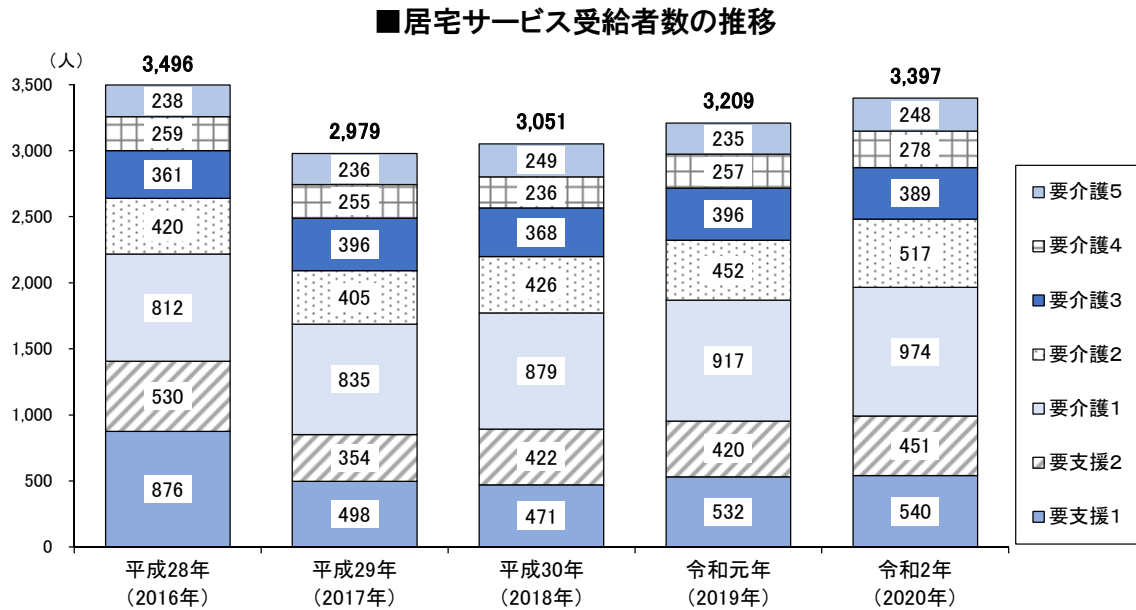
本市の認定率は兵庫県よりも低い値で推移していますが、全国よりも高い値が続いています。



資料：介護保険状況報告（各年9月月報）

③居宅サービス受給者数の推移

居宅サービス受給者数は平成29年より増加傾向にあります。要支援・要介護度別にみると、各年ともに要介護1が多く、令和2年では974人です。

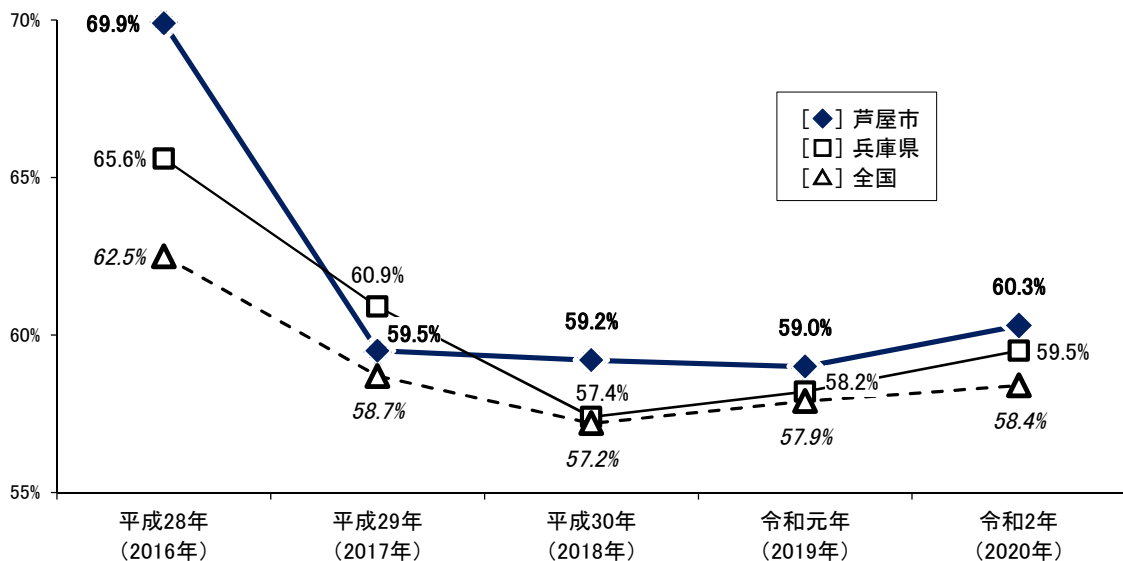


資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

※平成29年の要支援1・2の受給者数が大きく減少しているのは、平成29年4月から総合事業が開始されたことにより、予防訪問介護と予防通所介護のサービス受給者が総合事業に移行したため。

平成28年以降の居宅サービス受給者割合は、平成29年を除いて全国・兵庫県の値を上回って推移しており、居宅サービスの受給者割合が高い状況です。

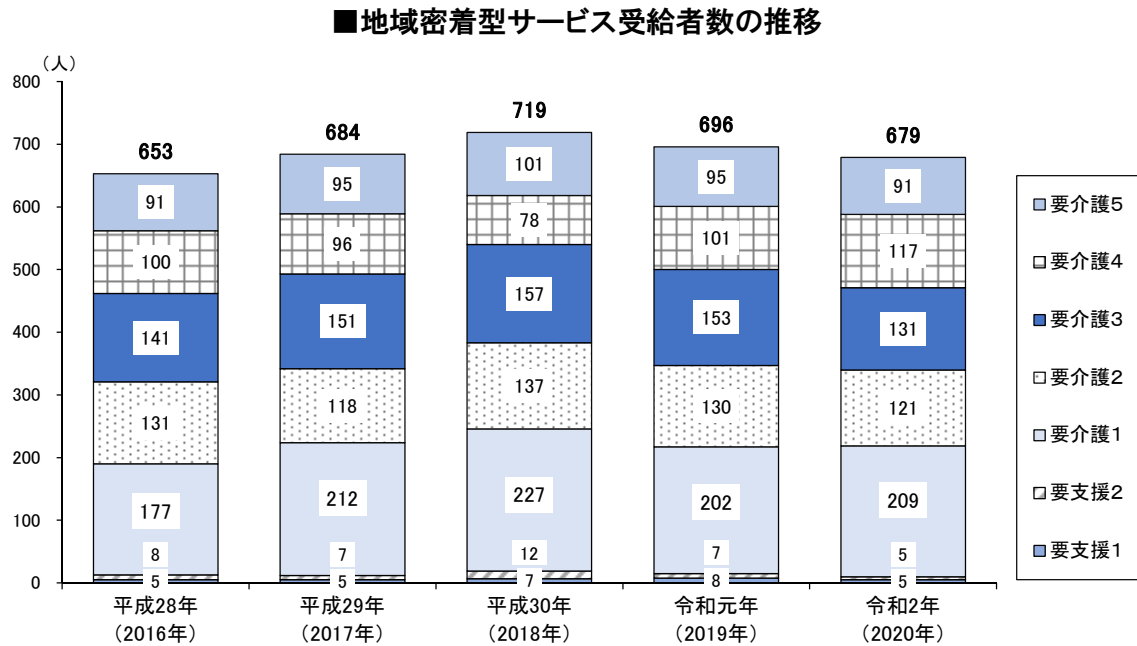
■要支援・要介護認定者数に対する居宅サービス受給者割合【全国・兵庫県との比較】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

④地域密着型サービス受給者数の推移

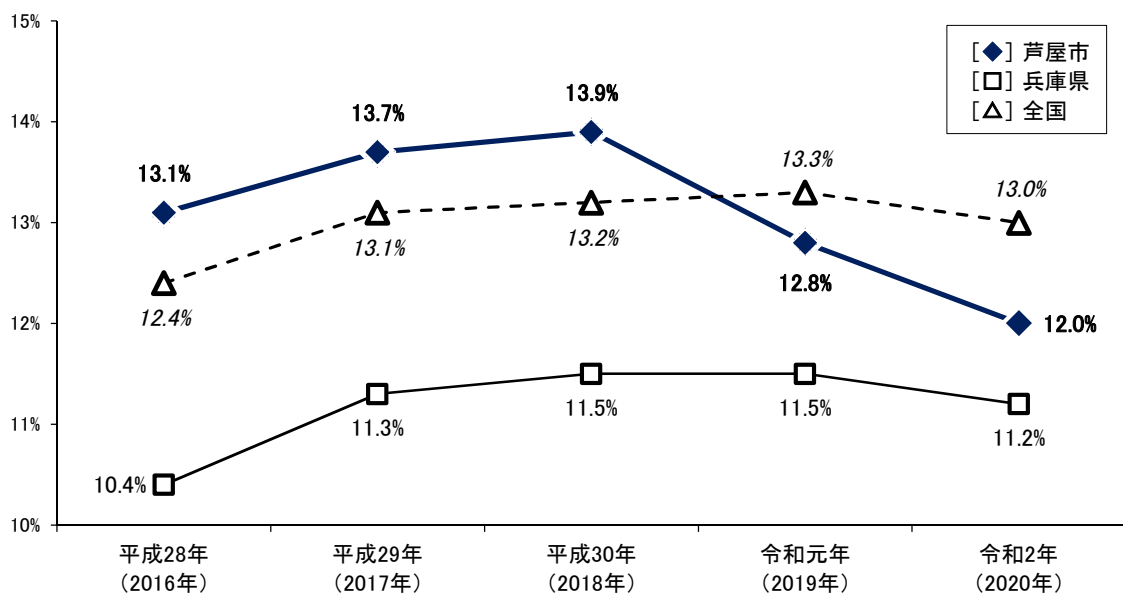
地域密着型サービス受給者数は増加傾向を経て近年は減少傾向にあります。要支援・要介護度別にみると、各年ともに要介護1が多く、令和2年では209人です。



資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

地域密着型サービス受給者割合は、平成30年までは全国・兵庫県の値を上回って推移していましたが、令和元年以降は減少傾向が続いており、全国平均を下回っています。

■要支援・要介護認定者数に対する地域密着型サービス受給者割合【全国・兵庫県との比較】

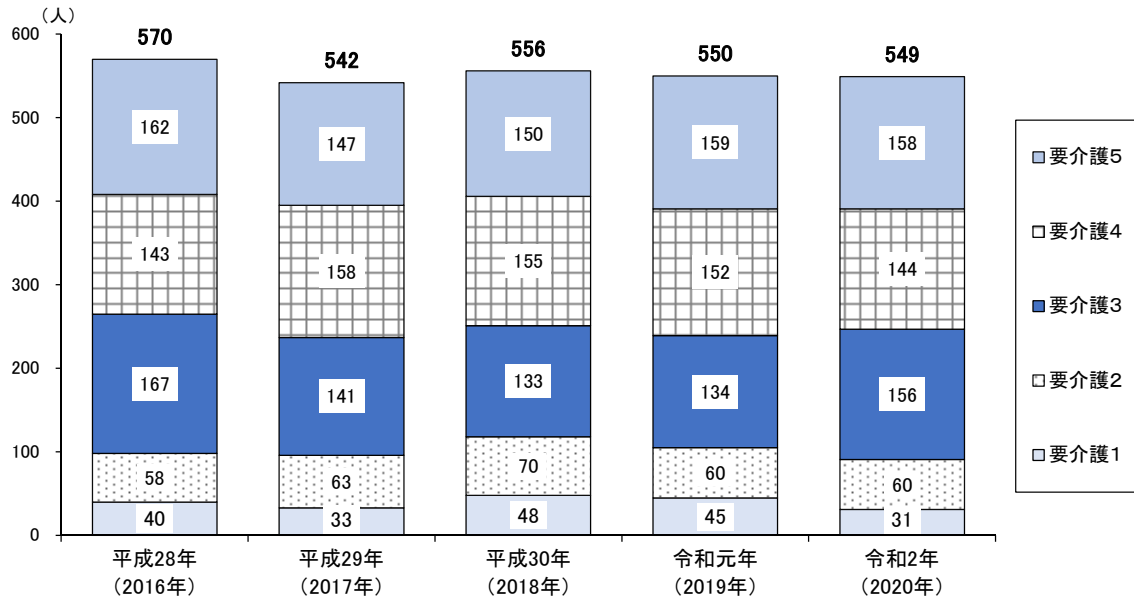


資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

⑤施設サービス受給者数の推移

施設サービス受給者数は、概ね横ばい傾向にあります。要支援・要介護度別にみると、近年は要介護5が多く、令和2年では158人です。

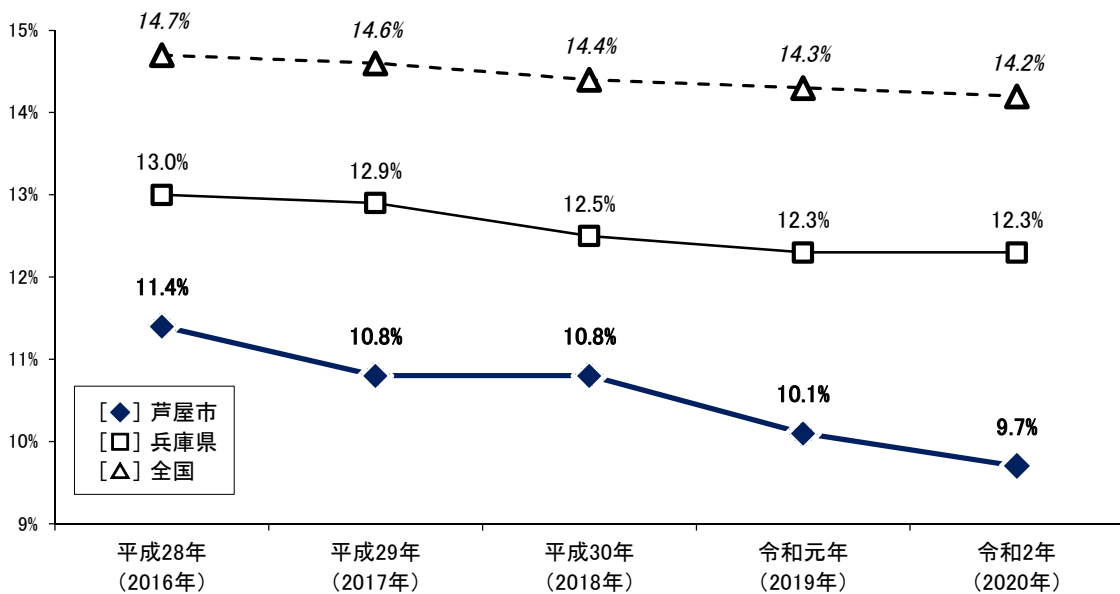
■施設サービス受給者数の推移



資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

平成28年以降の施設サービス受給者割合は、全国や兵庫県の値を下回って推移しており、受給者割合は低い状況です。

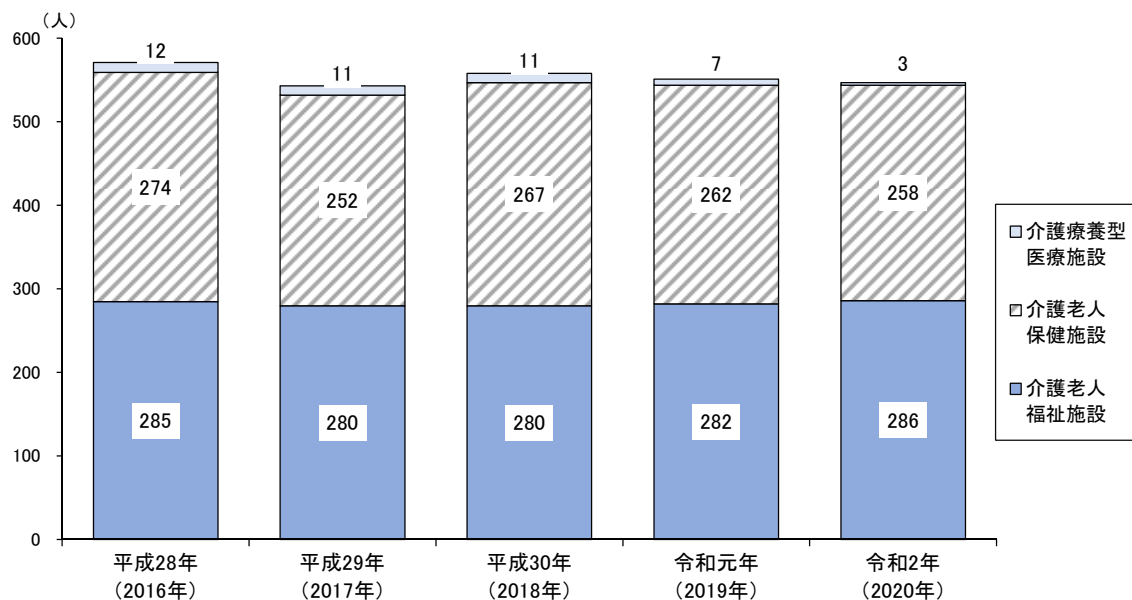
■要支援・要介護認定者数に対する施設サービス受給者割合【全国・兵庫県との比較】



資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

介護保険3施設別に利用状況をみると、令和2年では、介護老人福祉施設が286人、介護老人保健施設が258人、介護療養型医療施設が3人となっています。

■介護保険3施設別のサービス受給者数の推移

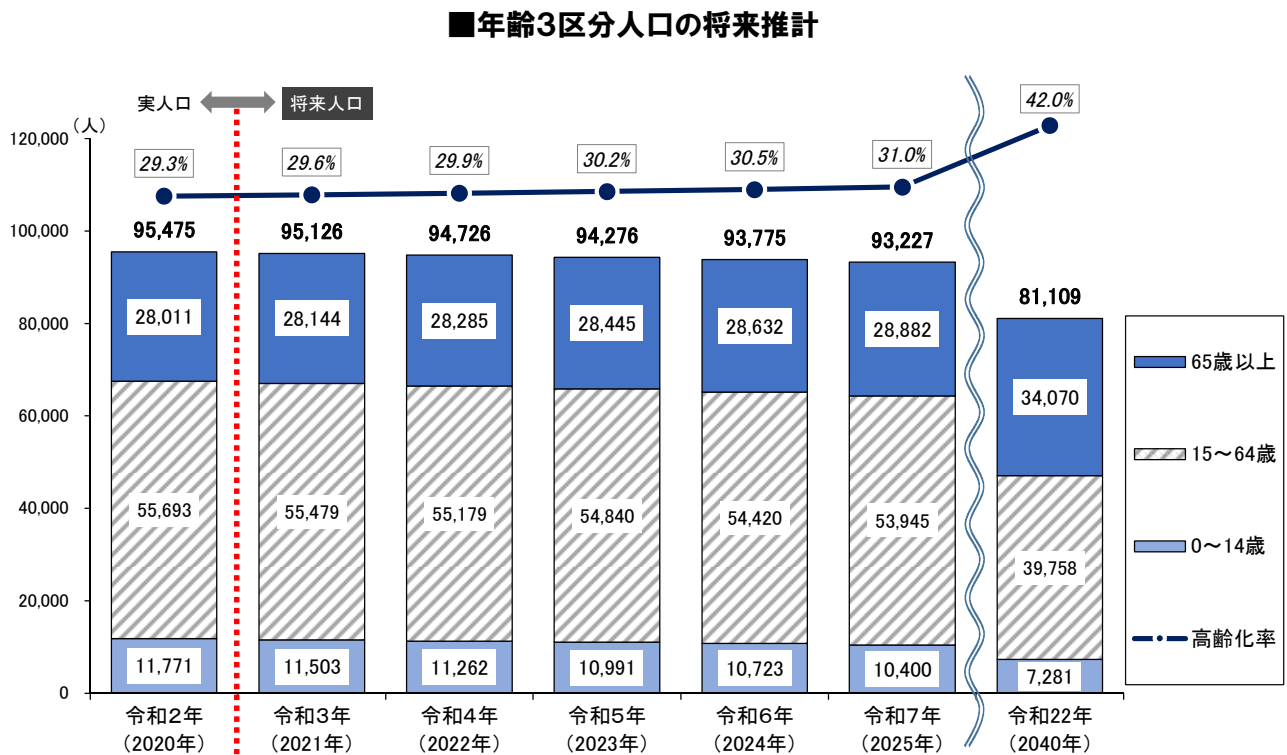


資料：介護保険状況報告（各年11月月報（9月利用分））

2 高齢者数および要支援・要介護認定者数の将来推計

(1) 将来人口の推計

本市の総人口は9万人台から減少しつつ推移していくと見込まれます。年齢区分で見ると、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口は減少が見込まれます。65歳以上の高齢者人口は増加し続け、令和7年（2025年）に28,882人と予測されます。高齢化率は徐々に上昇し、令和7年（2025年）に31.0%、令和22年（2040年）には42.0%と見込まれます。



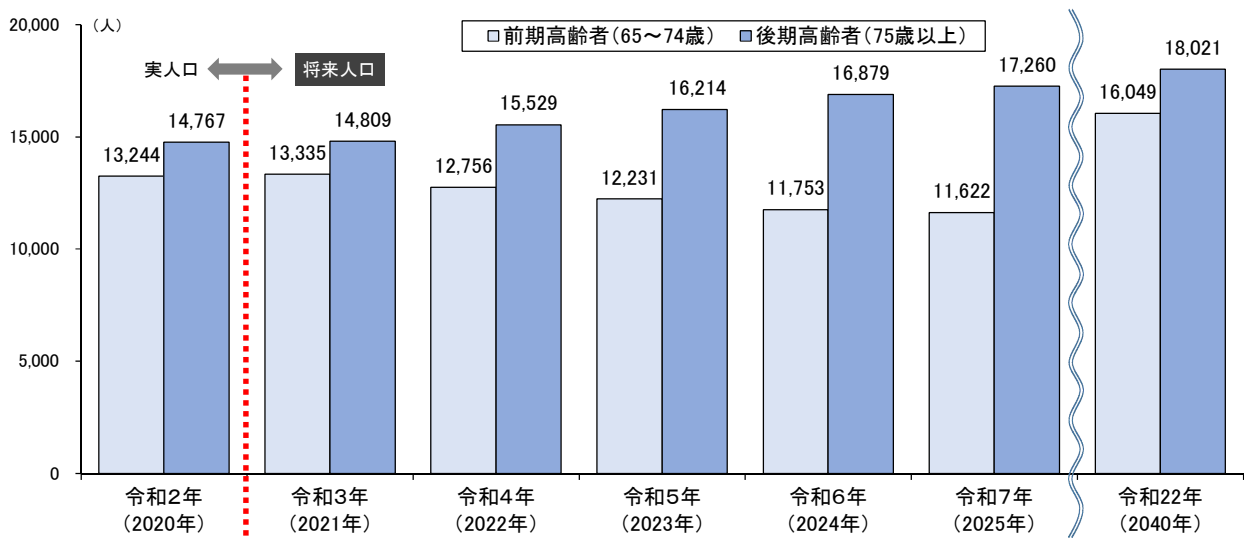
資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

※令和3年以降は、住民基本台帳人口データ（平成28年～令和2年の実人口）を基に、各年10月1日の値を独自推計

(2)高齢者数の推計

本市の将来的な高齢者数をみると、前期高齢者（65歳から74歳）は令和4年（2022年）から減少に転じますが、後期高齢者（75歳以上）は年々増加し、令和7年（2025年）には、前期高齢者数 11,622人、後期高齢者数 17,260人と見込まれます。その後、前期高齢者数は令和9年（2027年）以降増加が続き、後期高齢者数は令和7年（2025年）以降変動しつつも、令和22年（2040年）には18,000人台に達すると予測されています。

■前期・後期高齢者人口の将来推計



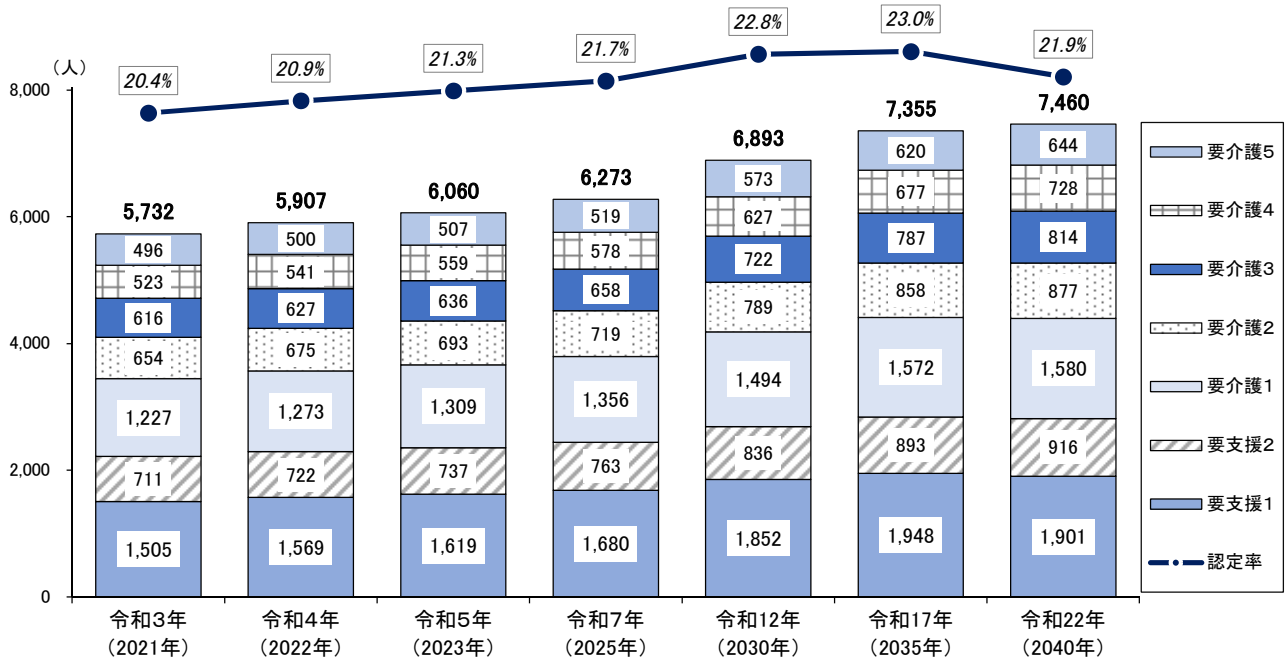
資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

※令和3年以降は、住民基本台帳人口データ（平成28年～令和2年の実人口）を基に、各年10月1日の値を独自推計

(3)要支援・要介護認定者の将来推計

性・年齢別の要支援・要介護認定者数の実績と高齢者等人口の実績及び将来人口推計から、要支援・要介護認定者数について将来推計を行いました。その結果、第1号被保険者で、令和7年(2025年)には認定者数6,273人、認定率21.7%と推計され、令和22年(2040年)には認定者数7,460人、認定率21.9%と推計されます。

■要支援・要介護認定者数の推計(第1号被保険者)



■要支援・要介護認定者数の推計(総数)

